



2023年12月14日

富良野駅の待合室にペレットストーブを設置しました

富良野駅の待合室にペレットストーブを設置し、当社が上富良野町に保有する「かみふらのの森」など富良野駅周辺の森林から生み出される間伐材等の資源を燃料として活用することで、エネルギーの地産地消とCO₂排出量の削減に取り組みます。

当社及び当社グループでは、「JR北海道グループ カーボンニュートラル 2050」に取り組んでおり、2050年にCO₂排出量を実質ゼロとすることを目指しております。

今冬期から富良野駅の待合室にペレットストーブ^{*}を設置し、エネルギーの地産地消とCO₂排出量の削減に取り組むほか、富良野駅をご利用になるお客様や地域の皆様にペレットストーブを身近に感じていただける場といたします。

^{*}ペレットストーブ：間伐材等の木材から製造した「ペレット」を燃やして暖をとるストーブです

1. 設置場所

富良野駅待合室（富良野市日の出町1）

2. 運転期間等

運転期間：2023年12月上旬から2024年3月中旬まで（以後、毎冬期に運転）

運転時間：毎日 9時から15時まで（既設のFF石油ストーブと併用します）

^{*}気候等により変更となる場合があります

3. 概要

(1) 導入するペレットストーブ

山本製作所 日陽（ひなた） 型式PS-1311F

※富良野市の「再生可能エネルギー導入促進事業補助金」を活用しています

(2) ペレットの原料となる森林資源

当社が保有する「かみふらのの森」（約270ha）など、富良野地区森林組合が所管する富良野市、上富良野町、中富良野町、占冠村の森林資源から製造されたペレットを使用します。

(3) ペレットの製造元

① チップ加工：有限会社 内田木材（中富良野町）

② ペレット加工・販売：RamaPokke、有限会社 三素（富良野市）

※原料の調達先や加工先等は状況により変更となる場合があります

4. CO₂排出量の削減

既設のFF石油ストーブとペレットストーブを併用し、待合室の室温を保てるように出力を調整しながら灯油の使用量を抑制することでCO₂排出量を削減します。

以上

富良野駅待合室のペレットストーブについて

1. エネルギーの地産地消

当社が保有する「かみふらのの森」など、富良野駅周辺の森林から生み出される間伐材等の資源を富良野駅待合室の暖房の燃料に活用することで、エネルギーの地産地消を実現します。



地理院タイルを加工して作成

①かみふらのの森〔上富良野町〕

当社が上富良野町に保有する約270haの森林で、富良野地区森林組合に維持管理を委託し、適切に保全しています。



②チップ加工〔中富良野町〕

富良野駅周辺の森林から得られた木材のうち、製材に適さないものを(有)内田木材において粉砕してチップに加工しています。



③ペレット加工〔富良野市〕

RamaPokkeにおいて、チップを機械に入れ圧力をかけて押し出してペレットに加工しています。
→ ペレットは(有)三素から購入しています。



④富良野駅〔富良野市〕

待合室にペレットストーブを導入※し、富良野駅周辺の森林を原料としたペレットを燃料に使用して冬の待合室を暖めます。
これにより、エネルギーの地産地消を実現します。

※ペレットストーブの導入には、富良野市の「再生可能エネルギー導入促進事業補助金」を活用しています。



原料の調達先や加工先等については、状況により変更となる場合があります。

富良野駅待合室のペレットストーブについて

2. CO2排出量の削減

ペレットなどの木質バイオマス燃料は、燃焼させても大気中のCO2の増減に影響を与えないカーボンニュートラルな燃料とされています。富良野駅待合室にペレットストーブを導入し、既設のFF石油ストーブの灯油使用量を抑制することで、CO2排出量を削減します。

◎併用期間中、FF石油ストーブの灯油使用量を抑制します。



FFストーブ
(既設)



ペレットストーブ

◎富良野駅待合室のペレットストーブに使用します。

→12月から3月まで運転 (運転時間：9時～15時)

CO2吸収



かみふらのの森など

◎かみふらのの森は、年間で約1,100トンのCO2を吸収しています。*

※林野庁長官通知「森林による二酸化炭素吸収量の算定方法について」により算出しています。

間伐材等

→ 道木連バイオマス
第256号



CO2固定



ペレット



チップ

◎間伐材等を粉砕したチップからペレットを製造します。

→1シーズンで約2トンのペレットを使用

カーボン
ニュートラル

ストーブの運転時間や燃料の使用量等については、状況により変更となる場合があります。